

【PMstyle】 プロジェクトマネジメント研修体系 資料

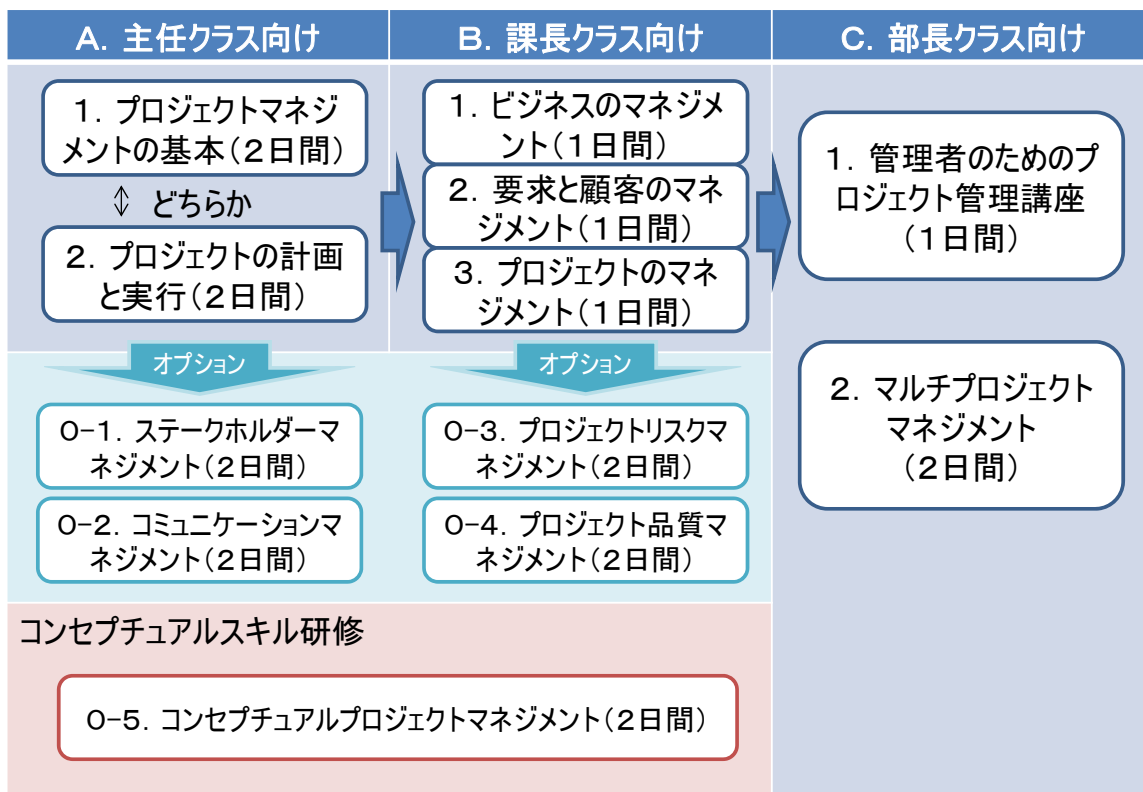
プロジェクトマネジメントオフィスの会社概要

会社名	株式会社プロジェクトマネジメントオフィス
所在地	京都府宇治市槇島町目川52-701
事業内容	技術経営のコンサルティング、プランの実施支援
代表者	好川哲人
設立	2004年4月
取引先	<p>【公的機関】京都市、京都高度技術研究所、京都府、大阪府、兵庫県、島根県、京都工業会、京都商工会議所、中小企業総合事業団、情報処理推進機構、他多数</p> <p>【民間企業】東京電力、関西電力、中部電力、大阪ガス、JR西日本、JR東日本、富士通、日本電気、NEC通信システム、日立製作所、日立建機、日立ソフト、日本IBM、GSK、NTTデータ、日本オラクル、三菱総研、日本総研、日本たばこ産業、JR総研、デル・コンピューター、フューチャーシステムコンサルティング、三菱重工業、三菱電機、松下電器産業、キャノン、サンヨー電機、ソニー、リクルート、富士ゼロックス、パソナ、パソナテック、テクノプレーン、リクルートエイブリック、@IT、ソフトバンク、博報堂、伊藤忠商事、京セラ、オムロン、オムロンソフト、リコー、リコーITソリューションズ、キアノン、ニコン、チッソ、堀場製作所、島津製作所、神鋼ヒューマンクリエイティブ、エクサ、ITエンジニアリング、NTTラーニングシステム、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTT-AT、アフラック、ほか多数</p> <p>【NPO】日本プロジェクトマネジメント協会、PMI日本支部、プロジェクトマネジメント学会、ITS S協会、日本アクションラーニング協会、他多数</p>

目次

プロジェクトマネジメント研修体系	P4
主任クラス向け研修	P5
課長クラス向け研修	P9
部長クラス向け研修	P15
オプション研修	P17
コンセプチュアルスキル研修	P25

プロジェクトマネジメント研修体系



A-1. プロジェクトマネジメントの基本 狙いと特徴

狙い

PMBOK(R)の基礎知識を習得する

- ・ PMBOK(R)のプロセス群と知識エリアを理解する
- ・ PMBOK(R)の主なプロセスについて理解する

特徴

PMBOK(R)の知識をケースによる演習によって習得する

- ・ PMBOK(R)の主なプロセスをケースによるグループ演習にて習得し、かつチームビルディングを体験する

効果

プロジェクトマネジメントを理解し、マネジメントが効果的になる

- ・ PMBOK(R)の主なプロセスを理解することで、プロジェクトマネジメントへの理解が進む
- ・ それぞれのプロジェクトに適した、効果的なプロジェクトマネジメントができるようになる

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

5

A-1. プロジェクトマネジメントの基本 カリキュラム

前半	時間	後半	時間
プロジェクトの立上げ、計画	7	プロジェクトの計画、実行、コントロール、 終結	7

第1日目	第2日目
1. プロジェクトマネジメントとPMBOK(R)の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトとプロジェクトマネジメント ・5つのプロセス群と10の知識エリア 2. プロジェクトの立上げ <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト憲章、ステークホルダー分析 【演習】ステークホルダー分析 3. プロジェクトの計画 <ul style="list-style-type: none"> ・スコープ定義 ・WBS 	3. プロジェクトの計画(続き) <ul style="list-style-type: none"> ・要員計画 ・スケジュール作成 ・リスク管理 ・予算作成 ・コミュニケーション計画 【演習】計画作成(WBS、スケジュール、予算、コミュニケーション、リスク) 4. プロジェクトのコントロール・実行・終結 <ul style="list-style-type: none"> ・進捗管理 ・チーム育成 ・振り返り 【演習】EVM

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

6

A-2. プロジェクトの計画と実行 狙いと特徴

狙い

プロジェクトマネジメントの流れとポイントを理解する

- ・ プロジェクトの定義、計画、実行とコントロール、振返りの流れを講義で理解し、演習にて知識の理解を確認し、気づきを得ることでポイントを理解する

特徴

演習にて、プロジェクトマネジメントを体験する

- ・ LEGO (R)を使ったプロジェクトの演習を交え、理論を体験し、実践的な知識として習得することを目指す。

効果

習得した知識の適用で、プロジェクトをマネジメントできる

- ・ ビジネスケースを作成することで、プロジェクトの背景、目的を考えたプロジェクト計画を作成できる
- ・ 単なる知識だけではなく、流れや仕組みを理解することで、実務に適用できるようになる

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

7

A-2. プロジェクトの計画と実行 カリキュラム

前半	時間	後半	時間
プロジェクトの立上げ、計画	7	プロジェクトの計画、実行、コントロール、 終結	7

第1日目	第2日目
1. プロジェクトとプロジェクトマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトのライフサイクル ・プロジェクトマネジメントの視点 ・PMBOK (R)の概要 2. プロジェクトの定義 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスケース ・プロジェクト憲章 ・商品ビジョンボックス ・ステークホルダー分析 【演習】社会課題やビジネス課題を解決するドローンの開発プロジェクトの定義	3. プロジェクトの計画 <ul style="list-style-type: none"> ・WBS ・スケジュール作成 ・予算作成 ・コミュニケーション計画 ・リスク計画 【演習】計画作成(WBS、スケジュール、予算、コミュニケーション、リスク) 4. プロジェクトの実行とコントロール、振返り <ul style="list-style-type: none"> ・チーム育成 ・進捗管理 ・振返り 【演習】プロジェクト実行、振返り

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

8

B-1. ビジネスのマネジメント 狙いと特徴

狙い

必要なビジネススキルの習得

- ・ プロジェクトをマネジメントするために必要なビジネススキル全般を習得する

特徴

事業、プログラム、プロジェクトの流れを解説する

- ・ 事業戦略からプログラム、プロジェクトの流れ、ベネフィットを達成するためのコストマネジメント、ベンダーマネジメントを解説する
- ・ ケースシナリオによる解説とグループ演習、ロールプレイにより、講義内容への理解が深まり、納得感を得ることができる

効果

プロジェクトの成果がビジネスに、より適したものになる

- ・ ビジネスとプログラム、プロジェクトの関連を理解することによって、プロジェクトマネジメントにおいて、意思決定がより適切になる
- ・ ベネフィットを考慮したマネジメントを行うことができる

B-1. ビジネスのマネジメント カリキュラム

前半	時間	後半	時間
ビジネスのライフサイクルとプログラム・プロジェクト	2	コストマネジメント ベンダーマネジメント	5

前半	後半
1. ビジネスのライフサイクルとプログラム・プロジェクト ・ システムライフサイクルと開発／運用 ・ プロジェクトの立上げ ・ ベネフィットをプログラムで管理する ・ プログラムマネジメント	2. コストマネジメント ・ プロジェクトにおける原価計算 ・ プロジェクトコスト ・ 投資コスト ・ 見積もりとコストコントロール ・ プロジェクトにおけるコストコントロールの進め方（演習）・コストコントロール計画策定 3. ベンダーマネジメント ・ 調達計画の策定とベンダー選定準備 ・ RFPと提案書の評価 ・ ベンダー決定と契約 ・ ベンダーコントロール （ロールプレイ）ベンダーのコントロール

B-2. 要求と顧客のマネジメント 狙いと特徴

狙い

顧客満足を達成するためのマネジメントを理解する

- ・ステークホルダーマネジメント全般を理解する
- ・顧客満足を達成するために必要な段階的詳細化と顧客中心プロジェクトマネジメントを理解する
- ・段階的詳細化計画、ステークホルダーマネジメント計画、コミュニケーションマネジメント計画を作成できる

特徴

相手の世界を理解することから顧客の求めるものを洞察する

- ・相手の世界を理解し、内部顧客、外部顧客が求めているものを、洞察し、それらを実現するための流れを解説する
- ・ケースシナリオによる解説とグループ演習、ロールプレイにより、講義内容への理解が深まり、納得感を得ることができる

効果

顧客が求めているものを理解し、それらを提供できる

- ・要求マネジメント計画を作成することができるようになる
- ・要求収集を、適切なステークホルダーから行えるようになる
- ・顧客がプロジェクトに対して求めているものを理解する
- ・顧客中心プロジェクトマネジメントとコミュニケーションマネジメントにより、顧客満足を達成する

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

11

B-2. 要求と顧客のマネジメント カリキュラム

前半	時間	後半	時間
ステークホルダーマネジメント プロジェクト要求マネジメント	3	顧客満足を達成する コミュニケーションマネジメント	4

前半	後半
1. ステークホルダーマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダー分析 ・ステークホルダーはプロジェクトに対して何を求めているか ・チームのマネジメント (演習)ステークホルダーマトリクス作成 2. プロジェクト要求マネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・要求マネジメントの計画 ・要求マネジメントの手法 ・要求の分類 ・要求の収集 (ロールプレイ)要求実現のための追加予算の交渉 	3. 顧客満足を達成する <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトにおける顧客の位置づけ ・顧客がプロジェクトマネジメントに対して求めるもの ・顧客中心プロジェクトマネジメント (演習)顧客満足を高めるプロジェクト計画 4. コミュニケーションマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトにおけるコミュニケーション ・コミュニケーションの問題によるプロジェクトの失敗 ・プロジェクトマネジャーのコミュニケーションに関する役割 ・コミュニケーションマネジメント ・コミュニケーション計画の作り方 (演習)コミュニケーション計画作成

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

12

B-3. プロジェクトのマネジメント 狙いと特徴

狙い

基本方針の重要性と、リスク、品質マネジメントを理解する

- ・プロジェクトマネジメントの基本方針(グランドデザイン)を明確にすることの重要性を理解する
- ・プロジェクトの目標を定義する品質マネジメントを理解する
- ・プロジェクト目標を達成するためのリスクマネジメントを理解する

特徴

プロジェクト品質を4つの視点から解説し、ツールを習得する

- ・プロジェクト品質を4つの視点から解説し、プロジェクト品質を達成するためのツールの解説・演習を行う
- ・リスクマネジメントをケースシナリオに沿って、プロセスを解説し、演習を行う
- ・ケースシナリオによる解説とグループ演習、ロールプレイにより、講義内容への理解が深まり、納得感を得ることができる

効果

プロジェクト期間を通じて、ぶれない意思決定を行う

- ・基本方針を決めることで、プロジェクト期間を通じて、ぶれない意思決定を行うことができる
- ・プロジェクトインフラストラクチャーを主要ステークホルダーで共有することにより、ステークホルダーの協力を引き出すことができる
- ・プロジェクト目標を達成するための、適切な品質マネジメント、リスクマネジメントを行うことができる

B-3. プロジェクトのマネジメント カリキュラム

前半	時間	後半	時間
プロジェクトインフラストラクチャー	2	プロジェクトリスクマネジメント プロジェクト品質マネジメント	5

午前	午後
1. プロジェクトインフラストラクチャー <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトインフラストラクチャーとは ・プロジェクト立ち上げに関するPI ・プロジェクト計画に関するPI ・プロジェクト実行と統制に関するPI ・プロジェクト終結に関するPI (演習)プロジェクトインフラストラクチャー	2. プロジェクトリスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・リスクの共通認識を作る ・リスクに対して当事者意識を植え付ける ・リスクに早期に対応する (演習)リスク特定 (ディスカッション)チームのリスク感度を上げるには
	3. プロジェクト品質マネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・成果物のクオリティとプロジェクトのクオリティ ・プロジェクトのクオリティの向上の方法 (演習)プロジェクト品質の家の作成

C-1. 管理者のためのプロジェクト管理講座 狙いと特徴

狙い

プロジェクトにおける管理者の役割と責任を知る

- ・ プロジェクトの上位管理者として、プロジェクトの指導／支援の方法を知ると同時に、プロジェクトの成果を経営的に最大化する方法を考える

特徴

コンサルティングから生まれた実践的な講義内容と演習

- ・ プロジェクトの成功させるために、上位管理者がすべき活動を網羅的に学ぶことができる
- ・ マネジメントは理論、リーダーシップは持論を中心に構成されている

効果

自身のリーダーシップを育成する

- ・ プロジェクトに対して上位管理者がすべき活動を知り、自身の活動の振り返りを行い、不足しているものを知ることができる
- ・ 他のマネジャーのリーダーシップについて知り、また、プロジェクトリーダーが望んでいるリーダーシップについて知り、自身のリーダーシップ育成の参考にすることができる

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

15

C-1. 管理者のためのプロジェクト管理講座 カリキュラム

前半	時間	後半	時間
プロジェクトにおける管理者の役割と責任	3	管理者が行うべきマネジメント	4

前半	後半
<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理者からみたプロジェクト活動の位置づけ <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業とプロジェクト活動 ・ 業務とプロジェクト活動 ・ 管理者にとってのプロジェクトマネジメント 2. プロジェクトに対する管理者の役割と責任 <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトにおける管理者の位置づけ ・ プロジェクトガバナンスとプロジェクトリーダーシップ ・ ビジネスリーダーとしてプロジェクトの成功を促進する ・ プロジェクトを立ち上げ、戦略を実行する ・ プロジェクト管理とプロジェクトマネジメント ・ プロジェクトマネジャーの指導・育成 3. 組織の方針をプロジェクトにより実現する <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営ビジョンや戦略を読み取る ・ 経営ビジョンや戦略と整合したプロジェクトを仕立てる ・ 経営ビジョンとの整合 ・ 戦略との整合 ・ 組織プロセスとの整合 	<ol style="list-style-type: none"> 4. 管理下のすべてのプロジェクトを成功させるために <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスケースによる複数プロジェクトの管理 ・ プロジェクト目標の達成を促進する ・ プロジェクトの収益を管理する ・ 複数のプロジェクト間でのリソースの調整 ・ 複数のプロジェクト間でのスコープの調整 ・ 問題プロジェクトへのテコ入れ ・ 陣頭指揮を執るべきプロジェクトの見極め 5. ビジネスの成果が上がるプロジェクト実行環境の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト管理の3つの視点 ・ 技術戦略の立案と推進 6. 人材育成と風土づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトリーダーの育成 ・ プロジェクト活動に適した風土をつくる 7. プロジェクトスポンサーシップを身につける <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト活動全体の推進(プロジェクトリーダーシップ) ・ プロジェクトの遂行に有用な人的ネットワークの提供 ・ 効果的なステークホルダとの関係構築支援 ・ 事例

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

16

C-2. マルチプロジェクトマネジメント 狙いと特徴

狙い

マルチプロジェクトのマネジャーの役割と責任を知る

- ・ 複数のプロジェクトを成功に導くためのマネジメントを習得する
- ・ マルチプロジェクトマネジメントの手法の概要を理解する

特徴

コンサルティングから生まれた実践的な講義内容と演習

- ・ プロジェクトを成功させるために、プロジェクトマネジャーがすべき活動を網羅的に学ぶことができる

効果

複数プロジェクト支援のためのリーダーシップを育成する

- ・ マルチプロジェクトをマネジメントするためのリーダーシップを育成できる
- ・ 複数のプロジェクトを、組織と統合したマネジメントにて成功させる

C-2. マルチプロジェクトマネジメント カリキュラム

前半	時間	後半	時間
マルチプロジェクトマネジメントの手法と計画	7	マルチプロジェクトマネジメントの実行 リソース計画	7

1日目

1. マルチプロジェクトマネジメントはなぜ難しいのか
2. マルチプロジェクトマネジメントの手法
 - ・ プロジェクトネットワーク
 - ・ バッファリング
 【演習】リソースアサイン
3. プロジェクト計画
 - ・ マルチプロジェクト計画のステップ
 - ・ プロジェクト計画
 【演習】プロジェクトスケジュール計画
4. 他のプロジェクトの変動の影響を減らす
5. プロジェクトのアライメントと起動
 - ・ プロジェクトの優先順位づけ
 - ・ タイムラインとリソースの分析
 - ・ プロジェクトの終結

2日目

6. マルチプロジェクトの実行マネジメント
 - ・ 経営ビジョン、戦略、組織プロセスとの整合
 - ・ プロジェクトアライメントの2つの方法
 - ・ 複数のプロジェクト間でのリソース、スコープの調整
 - ・ 問題プロジェクトへのテコ入れ
 【演習】リソース不足への対応
7. マルチプロジェクトマネジメントにおける役割
 - ・ プロジェクトマネジャーの役割
 - ・ リソースマネジャーの役割
 - ・ 上位管理者の役割
8. リソース計画
 - 【演習】リソース計画

C-2. マルチプロジェクトマネジメント 狙いと特徴

狙い

プロジェクトにおける管理者の役割と責任を知る

- ・ プロジェクトの上位管理者として、プロジェクトの指導／支援の方法を知ると同時に、プロジェクトの成果を経営的に最大化する方法を考える

特徴

コンサルティングから生まれた実践的な講義内容と演習

- ・ プロジェクトの成功させるために、上位管理者がすべき活動を網羅的に学ぶことができる
- ・ マネジメントは理論、リーダーシップは持論を中心に構成されている

効果

自身のリーダーシップを育成する

- ・ プロジェクトに対して上位管理者がすべき活動を知り、自身の活動の振返りを行い、不足しているものを知ることができる
- ・ 他のマネジャーのリーダーシップについて知り、また、プロジェクトリーダーが望んでいるリーダーシップについて知り、自身のリーダーシップ育成の参考にすることができる

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

19

O-1. ステークホルダーマネジメント カリキュラム

1日目	時間	2日目	時間
ステークホルダー分析 ステークホルダーの期待	7	ステークホルダーとの交渉 ステークホルダーマネジメント計画	7

1日目	2日目
1. ステークホルダーマネジメントとは何か <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーマネジメントの必要性 ・達成すべきこと 2. ステークホルダー分析の手法 <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーを特定する ・ステークホルダー可能性マトリクスで分析する (演習)ステークホルダー登録簿 3. ステークホルダーの期待をマネジメントする <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーの期待の把握 ・要求に応える計画 (ロールプレイ)ステークホルダーの期待 4. ステークホルダーのプロジェクトへの協力を得る <ul style="list-style-type: none"> ・協力が必要なステークホルダー ・プロジェクトステークホルダーの世界を理解する (演習)ステークホルダーキューブ 	5. ステークホルダーと交渉する <ul style="list-style-type: none"> ・交渉のポイント ・交渉の進め方 (ロールプレイ)交渉 6. ステークホルダーマネジメントを計画する <ul style="list-style-type: none"> ・何を決めておけばよいか ・ステークホルダーマネジメント計画の作成手順 (演習)ステークホルダーマネジメント計画 7. ケース <ul style="list-style-type: none"> ・顧客とのよい関係を作る ・上位組織を動かす ・チームを結束させる (ロールプレイ)上位者との話し合い 8. ステークホルダーマネジメントの難しさ

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

20

0-2. コミュニケーションマネジメント 狙いと特徴

狙い

プロジェクトにおけるコミュニケーションを理解する

- ・ コミュニケーションマネジメントによって、プロジェクトがどのように変わるかを理解する
- ・ コミュニケーションマネジメント計画作成手順を理解する

特徴

演習にてコミュニケーションマネジメントの難しさを体感する

- ・ 教育玩具を使った演習により、コミュニケーションのポイントを体感する
- ・ ロールプレイにより、プロジェクトにおける進捗報告のポイントを理解する
- ・ チームマネジメントのポイントをエクササイズで体感する

効果

コミュニケーションミスが減り、パフォーマンスが向上する

- ・ コミュニケーションミスを起こさないようなマネジメントができる
- ・ ステークホルダーの協力が得られ、チームビルディングができ、プロジェクトパフォーマンスが向上する

0-2. コミュニケーションマネジメント カリキュラム

1日目	時間	2日目	時間
コミュニケーションとは何か コミュニケーションマネジメント	7	コミュニケーションマネジメント計画 進捗報告	7

1日目	2日目
1. コミュニケーションとは何か <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの定義 ・ コミュニケーションモデル ・ コミュニケーションの原理(ドラッカー) 2. コミュニケーションの難しさ <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの難しさを体感する演習(演習)コミュニケーションマネジメントの重要性 3. プロジェクトにおけるコミュニケーションとコミュニケーションマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションマネジメントの目的 ・ コミュニケーションに起因するプロジェクトの失敗 ・ コミュニケーションの基本とマネジメント 	4. コミュニケーションマネジメント計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションマネジメントの視点 ・ コミュニケーションマネジメント計画作成手順(演習)コミュニケーションマネジメント計画 5. 進捗報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗報告とは何か ・ 進捗報告の内容と進捗管理 ・ アンド・バリューによる進捗報告 ・ (ロールプレイ)進捗報告 6. チームコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・ チームビルディングの進め方 ・ チームコミュニケーションの留意点(エクササイズ)チームコミュニケーション

0-3. プロジェクトリスクマネジメント 狙いと特徴

狙い

リスクマネジメントをやり抜くマインドを作る

- ・ リスクマネジメントをプロジェクト関係者全体の問題としてとらえ、リスクマネジメントを確実にやり抜く環境とリスクに対するマインドを作り上げる
- ・ リスクマインドの土台となるPMBOK(R)プロジェクトマネジメントを理解する

特徴

リスクマインドのアセスメントと対策を具体的に解説

- ・ プロジェクトやプロジェクトマネジャー、プロジェクトメンバーのアセスメントを行う
- ・ リスクマインドを具体的に指標化し、指標を上げるための対策を解説する
- ・ 演習シナリオに沿って、PMBOK(R)のリスクマネジメントプロセスを体験する

効果

リスクマインドの向上

- ・ リスクをとることで、挑戦的、かつ戦略的なプロジェクトマネジメントができるようになる
- ・ それぞれのプロジェクトのリスクマネジメントの必要性和リスクマインドのレベルを知ることで、対策が効果的になる

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

23

0-3. プロジェクトリスクマネジメント カリキュラム

1日目	時間	2日目	時間
リスクの知識とリスクマネジメントの概要	7	リスク対応計画とリスク監視 リスクマインドを高める	7

1日目	2日目
1. リスクに対する正しい知識を身につける 2. リスクマネジメントの概要 ・リスクマネジメントとは ・リスクマネジメント計画 (演習)リスクドリル 3. リスク特定 (演習)リスク特定 4. リスク分析 ・定性的リスク分析 ・定量的リスク分析 (演習)リスク分析	5. リスク対応計画 (演習)リスク対応計画 6. リスクの監視と管理 (演習)リスクドリル 7. リスクの分類とパターン化、ナレッジマネジメント (エクササイズ)リスクパターン作成演習 8. プロジェクトのリスクマインドを高めるための施策 (エクササイズ)施策検討

© 2017 PMstyle All Rights Reserved.

24

0-4. プロジェクト品質マネジメント 狙いと特徴

狙い

プロジェクト品質とは何かを理解する

- ・ プロジェクト品質向上のためのプロセスとツールとマインドを学ぶ
- ・ 顧客満足を向上させるプロジェクトマネジメントのポイントを理解する

特徴

4つの視点からプロジェクト品質のマネジメントを解説する

- ・ プロジェクト品質向上について、4つの視点での施策をプロセス群ごとに解説する
- ・ 顧客の期待からプロジェクトのスコップ、プロジェクト品質の基準を決めるためのツールとして、プロジェクト品質の家を演習にて作成する

効果

顧客満足を向上させるマネジメントを実践できる

- ・ プロジェクト品質を向上させるためのプロセスとツールを理解し、実施することで、結果として、成果物の品質が向上する
- ・ 顧客満足を向上させるプロジェクトマネジメントを実践できる

0-4. プロジェクト品質マネジメント カリキュラム

1日目	時間	2日目	時間
プロジェクト品質と顧客満足	7	コミュニケーションマネジメント計画 進捗報告	7

1日目	2日目
<p>1. プロジェクト品質と顧客満足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトの品質と成果物の品質 ・ プロジェクト品質向上による顧客満足の達成 ・ プロジェクト品質マネジメントの基本 ・ プロジェクト品質マネジメントの進め方 (演習)品質低下の原因をシステム思考で考える <p>2. プロジェクト品質を高め顧客満足向上させるプロジェクト計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高いプロジェクト品質を実現する計画の作り方 ・ 顧客中心プロジェクトマネジメント ・ プロジェクト品質を上げるリスク計画 (演習)プロジェクトマネジメント計画作成 	<p>3. プロジェクトライフサイクルごとのプロジェクト品質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト品質向上の視点 ・ プロセス品質向上へのアプローチ ・ マネジメント品質向上へのアプローチ (演習)プロジェクト品質の家の作成 <p>4. 顧客満足向上させるプロジェクトマネジメントのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スコップ区分の明確化と顧客との共有 ・ 顧客のニーズに合致するプロジェクト計画の詳細化 ・ 顧客を巻き込んだリスクマネジメント (演習)プロジェクトマネジメント計画の見直し

0-5. コンセプチュアルプロジェクトマネジメント 狙いと特徴

狙い

コンセプチュアルなプロジェクトマネジメントの習得

- ・ 本質を見抜く方法、洞察、応用などのコンセプチュアルスキルを習得する
- ・ コンセプチュアルスキルをプロジェクトマネジメントに応用する方法を習得する

特徴

コンセプチュアルスキルの使い方を習得できる

- ・ 演習にて、洞察力、応用力を高めるトレーニングを行う
- ・ プロジェクトや目的の本質に注目して、PMBOK(R)のプロジェクトマネジメントを適用する方法を習得する

効果

成果を最大化するマネジメントを身につける

- ・ プロジェクトで得られるインパクト(成果)が大きくなる
- ・ 自身のプロジェクトマネジメントが創造的、かつ、高品質になる

0-5. コンセプチュアルプロジェクトマネジメント カリキュラム

1日目	時間	2日目	時間
コンセプチュアルスキル入門	7	コンセプチュアルなプロジェクトマネジメント	7

1日目	2日目
<ol style="list-style-type: none"> 概念的に考えて、具体的な行動をする <ul style="list-style-type: none"> ・なぜコンセプチュアルに考えるのか ・「本質」の果たす重要な役割 ・本質を見極める5つの思考 本質を見極めるスキル <ul style="list-style-type: none"> ・概念的に捉える ・構造的に捉える ・直観的に捉える 顧客の要求の本質を見極める 洞察力を高める <ul style="list-style-type: none"> ・思考軸を働かせる ・いろいろな立場からの目的や前提を考える ・物語を書いて見る(内面的なものを捉える) ・要求の本質を見極める 応用力を高める <ul style="list-style-type: none"> ・持っている知識から類推する 	<ol style="list-style-type: none"> 要求の本質を見抜いたスコープ定義 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトへの要求の本質を分析し、理解する ・理解に基づき、期待を上回る提案をす 成果を最大化する目的と目標の決定 <ul style="list-style-type: none"> ・市場や顧客、経営、チームの目的を統合し、成果を最大化する ・重要なステークホルダーを巻き込む 本質的な目標を優先する計画 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの本質にかかわる目標を明確にし、達成する計画をする ・目標を達成する方法を明確にしたマネジメント計画を明確にする プロジェクトマネジメント計画を活用した柔軟なプロジェクト運営 創造的な問題解決 経験を活かしてプロジェクトを成功させる